

教育長 殿

宮城県柴田農林高等学校  
校長 柳瀬 克紀

## 令和5年度 学校評価報告書

## 1 本年度の重点目標

## 学校教育目標

- (1) 自他の命を大切に、高い志と思いやりの心を持つ、心身共に健やかな人間を育成する。  
 (2) 自ら学び自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育成する。  
 (3) 様々な体験活動を通じ、人との交流の大切さを実感させ、倫理観、規範意識を育成する。  
 (4) 勤労と責任を重んじ、地域社会の発展に寄与する人間を育成する。

## 2 自己評価結果に対する学校関係者評価

**A 達成している**      **B おおよそ達成している**      **C あまり達成していない**      **D 達成していない**

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	① 授業にしっかり取り組む準備と学習態度の醸成について	B	生徒の特別活動に関わる事案件数が多かったため、授業の準備や生徒の学習態度の醸成という目標は達成できなかった。問題行動が多い生徒に対して向き合う姿勢を心がけ、問題行動の未然防止に努めるとともに、授業最優先となるように、協力体制を整備する。	B	B
	② 学習課題への興味関心を高めたり、学習内容を分かりやすく説明するための、指導方法の工夫	A	各教科において、学習内容を分かりやすく興味関心を高める授業の工夫を行った。特に、生徒自身がiPadを使用して活動するなど、ICTを有効に活用した授業が増えた。来年度も継続して授業の工夫改善に努める。	B	B
	③ 各学年による評価基準を再確認し、生徒に不利益にならない評価の検討	A	新教育課程・観点別評価について、教務部主導の事前講習会を実施し、対策を講じたことから、大きな混乱はなかった。ただし、考査問題で観点別評価の割合の明記がなかった等があり、今後、様式を統一するとともに、評価基準を教員間で情報共有し、根拠の明確化に努める。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		・生徒の興味、関心を引き出すよう努力され、工夫されている様子が伺えます。			
生徒指導	① 基本的な生活習慣と規律正しい集団生活の確立	C	欠席・遅刻・早退が相変わらず増加傾向であり、基本的な生活習慣が身につけていなかった。1年後には社会人となること、自立した大人になることなど、進路を意識して、当たり前のことを当たり前にできるように、学校全体で指導を徹底していく。	B	B
	② 愛校心と所属感を育む生徒会活動の活性化	B	生徒会中心に文化祭一般公開を久しぶりに開催することができたが、愛校心や所属感を養う生徒会活動を十分行うことができなかった。コロナ禍の状況が緩和されたことから、校歌練習などを取り入れ、最後の卒業生として愛校心を身につけられる取り組みを推進する。	B	B
	③ 生命の尊重と安全な生活態度の確立	B	定期的にいじめアンケートを実施し、いじめの未然防止と早期発見に努めたが、残念ながらいじめ事案や器物損壊を含む暴力行為が発生した。スクールカウンセラーによる教育相談も含めて、特別活動を充実させ、規範意識の醸成に努める。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご苦勞のあとがみられます。地域に出かけるなどして、実社会の中で訓練を重ねるしかないと思います。</li> <li>・校内での挨拶は良くできているでしょうか。アルバイトの生徒が声を出さない傾向にあります。</li> <li>・いじめアンケート調査だけでは実態把握が難しいので、全教職員が連携して対応してもらいたい。</li> </ul>			

進路指導	① 生徒の発達に応じた進路目標の育成について	B	3 学年に対する具体的な進路選択のアドバイスや、2 学年に対するガイダンスの実施など、進路のしおりを活用しながら、生徒の成長に応じて生徒が自ら進んで進路選択に取り組んでできるように指導している。学校独自の校内企業説明会を継続して実施し、進路意識の醸成に努める。	B	B
	② 卒業生の進学・就職先について	B	進路部による企業開拓や就職支援コーディネーターのバックアップもあり適切な就職先への斡旋と同時に早期の内定を獲得することができた。また、学年と進路の協力体制により、面接や小論文指導を充実させることができ、進学先の合格につながった。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の実績及び継続が進路に影響を及ぼします。途中からでも是非やらせてください。</li> <li>・生徒や保護者の希望をできるだけ優先して対応してもらいたい。</li> <li>・部活動指導の地域移行は進んでいるのでしょうか。</li> </ul>				

### 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 授業にしっかり取り組む準備と学習態度の醸成	教職員の教材研究を充実させて魅力ある授業の展開を目指すとともに、教職員が授業最優先で臨めるように、校内の協力体制を整備する。
② 生命の尊重と安全な生活態度の確立	定期的な生徒に対するいじめアンケートの実施に加え、保護者に対しても定期的に情報提供を呼びかけ、関係者が一致団結して、いじめのない学校を作る姿勢を示す。また、スクールカウンセラーによる教育相談も含めて、特別活動を充実させ、自他における生命尊重の醸成に努める。
③ 愛校心と所属感を育む生徒会活動の活性化	柴田農林高校最後の卒業生としての意識を高め、自信と誇りを持って卒業するよう、閉校記念行事や文化祭、地域連携活動、部活動など生徒が活躍する様々な場面を設定する。